

平成29年度 自己評価表 坂町立坂小学校

～志を立て 社会で活躍する児童の育成～

中期経営目標	短期経営目標	評価項目(具体的な取組・方策)	評価指標	実績値		目標値	評価 (自己評価の結果)	成果と課題	改善策																													
				2学期	3学期	H29																																
豊かな心の育成 ・礼節を重んじる道徳性の向上 ・信頼と思いやり	礼儀正しいあいさつ	・各学級で月初めに目標を確認し、取り組み方について話し合い、月末に振り返る。(評価シールで見える化する) ・「あいさつタイム」を設定し、礼儀正しいあいさつをポイントを絞って指導する。 ・生活委員会を中心に、児童の主体的な「あいさつ運動」に取り組み、期間中を中心に学級で振り返りを行う。 ・教職員から進んであいさつを行い、あいさつの手本となる児童を紹介するなど、積極的に肯定的評価を行う。 ・アンケート項目「ぼく・わたしは、学校や家や地域で、進んであいさつができる」	児童アンケート(目標振り返り表)	89% (78%)		85%		○あいさつを進んでできる児童を増やすために生活委員会が中心となり、児童主体の「あいさつ運動」を2度実施した。児童が主体的に取り組むことで、他の児童への啓発につながっていると考える。 ○「あいさつタイム」を継続することで、大きな声であいさつができるようになってきた。 ●いつでもあいさつができる児童の育成を図る。	・継続して、児童が主体となった活動充実させる。 ・教職員が日常のあいさつで、できているところを肯定的に評価していく。																													
	掃除の徹底(黙動清掃)	・各学級で月初めに目標を確認し、取り組み方について話し合い、月末に振り返る。(評価シールで見える化する) ・美化委員会を中心に、朝会等での黙動清掃や掃除の手順の徹底などの啓発活動を行い、校内美化の意識を高める。 ・掃除開始前に「めあてタイム」を行い、自分のめあてを意識させ、掃除後、学級ごとに、めあてに沿った振り返りを行う。 ・教職員の掃除エリア担当を決めて、掃除の指導が行き届くようにする。 ・アンケート項目「ぼく・わたしは、めあてをもって掃除をすることができる」	児童アンケート(目標振り返り表)	81% (44%)		80%		○「めあてタイム」で黙動清掃に対する意識を持たせることにより、集中して掃除をする児童が増えてきた。 ○美化委員会を中心に、黙動清掃週間を提案し、児童が主体的に取り組んでいる。 ●学級による取組への温度差が数値に表れている。	・黙動清掃週間の振り返りを生かし、児童に黙動清掃の意義を理解させ、取り組む意識を高める。 ・引き続き全教職員で掃除時間の巡回指導を行う。																													
主体的な学びの充実	確かな学力の習得 活用力の育成	・「さかしよう学びのサイクル」(坂町授業システムを含む)を取り入れて、協働的に学びを深める授業改善を行う。 ・家庭学習(読書を含む)の習慣化と内容の充実を図り、授業とのつながりを意識して指導と評価を行う。 ・各種学力調査の分析を行い、フォローアッププリントを活用して定着を図る。(まなびタイム) (参考資料:平成28年度結果)	「基礎・基本」定着状況調査 全国学力・学習状況調査	県平均 通過率 +0.2% 全国平均 +10.3%		県平均 通過率 +3% 全国平均 +5%		○「基礎・基本」定着状況調査は算数科と理科で県平均を超えることができた。全国学力・学習状況調査は全教科で全国平均を超えることができた。基礎的・基本的な学習内容は概ね定着している。 ●5年生の国語科は、県平均を下回り、定着が充分とは言えない。また、各教科とも活用する力に課題が見られた。	・改善計画に基づいて、計画的に取り組んでいる。今後は学年の総復習を行う予定である。また、次年度実施学年には、課題を分析して類似問題等に取り組ませている。																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">平均正答率の比較</th> <th colspan="2">国語</th> <th colspan="2">算数</th> </tr> <tr> <th>本校</th> <th>県・全国</th> <th>本校</th> <th>県・全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年生 標準学力調査</td> <td>73.4</td> <td>72.2</td> <td>72.2</td> <td>68.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">△1.2</td> <td colspan="2">△3.4</td> </tr> <tr> <td>5年生 「基礎・基本」調査</td> <td>69.0</td> <td>63.7</td> <td>76.6</td> <td>69.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">△5.3</td> <td colspan="2">△7.2</td> </tr> </tbody> </table>	平均正答率の比較	国語		算数		本校	県・全国	本校	県・全国	4年生 標準学力調査	73.4	72.2	72.2	68.8		△1.2		△3.4		5年生 「基礎・基本」調査	69.0	63.7	76.6	69.4		△5.3		△7.2		標準学力調査			全国正答率を超える教科 12/16			
		平均正答率の比較		国語		算数																																
本校	県・全国		本校	県・全国																																		
4年生 標準学力調査	73.4	72.2	72.2	68.8																																		
	△1.2		△3.4																																			
5年生 「基礎・基本」調査	69.0	63.7	76.6	69.4																																		
	△5.3		△7.2																																			
			「主体的な学び」のアンケート	10/10		県平均を超える項目 7/10		○全ての項目で県平均を超えることができた。 ○児童も教職員も思考を深めることを意識して取り組んでいる。 ○協働的な学習により、学びの深まりをめざした単元開発、授業改善を学校全体で取り組むことができた。 ●考えの根拠を明らかにして説明するなどの表現への意識に課題が見られる。	・グループ学習や学級全体での課題解決を意識した協働的な学びにつながる授業改善の取組を継続する。 ・児童が根拠を明らかにして説明できるよう、語型の提示や教師の切り返し発問を意図的に行う。																													
たくましい体の育成 ・体力の向上 ・基本的生活習慣	筋力の向上	・休憩時間の外遊びを奨励する。 ・体育の授業に筋力を向上させるためのサーキットトレーニングを取り入れる。 ・家庭での取組を促すための保護者への啓発を図る。	新体力テスト「上体起こし」「握力」の項目が県平均を超えている児童の割合	上体起こし 51.0% 握力 59.7%		65%		○児童アンケートによると、80%の児童が休憩時間によく外で遊んでいると答えている。 ○昨年度課題であった「握力」は6学年中(男女別12学年)10学年が、「上体起こし」については6学年が県平均を超えている。握力コーナーをつくり、握力計に触れさせたり、記録を掲示して興味を持たせたことも記録向上につながったと考える。 ○長期休業前に「チャレンジカード」を配付し、家庭での運動を促した。 ●取組の成果が見える一方、取り組まなかった種目「反復横とび」「20mシャトルラン」に課題が見られた。バランスの取れた体力向上のための取組が必要である。	・業間体育の期間を長めに(連続して)設定し、運動する習慣を身に付けさせる。 ・各学年の課題を明確にするとともに、児童と共有し、体育の準備運動等を工夫して力をつける。 ・取組の目標や成果を掲示し、関心と意欲を高める。																													
保護者や地域から信頼される学校づくり	心に寄り添う生徒指導と保護者連携	・情報を公開し、目標、課題、取組を共有して、チーム坂小で取り組む。 ・児童と向き合う時間や保護者と連携する時間を確保するために、組織的な業務改善を図る。	保護者アンケートによる満足度(保護者連携) 教職員アンケート	88% 84%		90% 90%		●学校便りによる情報発信は適時行っているが、HPIによる発信は充分とは言えない。 ●保護者アンケートの結果から、10項目中7項目において80%以上の肯定的回答を得ている。保護者連携の満足度においては目標値に達していない。 ○教職員アンケートの結果から、83.9%の教職員が業務改善に対する肯定的回答を示している。	・教職員が児童、保護者との関わりに充実感が持てるよう、成果を見える化し、肯定的に評価していく。 ・児童アンケート(児童の実態)と保護者アンケートの結果のずれが小さくなっている。引き続き適時性のある情報を発信する。																													

【自己評価 評価基準】 A:目標は十分達成された(目標値+5%以上) B:目標は達成された(目標値±4%)
C:目標は達成されなかった(目標値-5%以下) D:目標は全く達成されなかった(目標値-10%以下)